=市史編さん便り=　【第 24 号】令和 3 年 8 月 15 日(日) 発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

終戦から 76 年･･･戦争の記録を後世に残すこと！

広島や長崎に投下された原子爆弾は、多くの尊い人命を奪い去り、生き残った人を後遺症で長く苦しめていった。この時期、先の戦争に関わるドキュメント番組が多く放送された。戦争ほど残酷なものはない。戦争ほど悲惨なものはない。

アフガニスタン各地では、反政府武装勢力タリバンが首都カブール郊外まで迫り、駐在する外国大使館は外交官の退避や閉鎖の動きを加速させている。いずれにしても戦争の最大の犠牲者は市民であり、子どもや高齢者である。様々な政治的要求やイデオロギーがあると思うが、人命こそ最大に尊重されなければならない。国連のグテーレス事務総長は、反政府勢力タリバンに対して「市民への攻撃は国際人道法の深刻な違反で、戦争犯罪になる」ことを記者会見で強調した。

昭和 19 年(1944)7 月、三崎地区に米軍爆撃機Ｂ29 による空爆が行われた。その一機は、三崎小学校東側水田に一個、泥谷病院の東に一個、三崎浜に一個、計３個の爆弾を投下し、南洋上に消えた。もう一機は、叶崎沖合いから飛来し、千尋港に一個、竜串六竿神社に一個、田の内の山林に一個投下し、東方上空に消えた。田の内の山林に投下された爆弾は不発であり、後に三崎駐屯の特殊警備隊より導火線で点火され、火薬の黒煙とともに３時間燃え続け処理された。
竜串六竿神社へ落ちた爆弾は、巨大な石の塊が跳ね上がり、民家の屋根を突き抜けて落ち、そこにいた小学５年生(当時)の女の子が亡くなった。その他にも馬一頭が犠牲となった。そして、家屋の被害はあちこちで見られた。
また、この頃(昭和 19 年代)、米軍のグラマン戦闘機による民間人への機上からの機関銃の乱射が全国的に見られた。三崎村周辺でも竜串海岸、三崎川堤防沿線などで低空飛行し、そこにいた人々に機関銃を乱射したことが目撃・確認されている。グラマン戦闘機に遭遇した人々は、生きた心地がしなかったことだろう。

このように戦争の記憶は、長崎・広島に限らず、この土佐清水市域にも確実に戦争の記憶は残されている。この戦争の記憶を風化させることなく、次の時代へとつなげていくことが私たちの責務であり、同時に市史編集委員会が進めている「市史編さん」の大きな使命ではないだろうか。
本日 8 月 15 日、76 回目の終戦記念日を迎えた。先の大戦で犠牲となられた内外のすべての方々に哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りしたい。

引用・参考文献

浜平清市『郷土のできごと』土佐清水市三崎公民館、1983 年、41―45 頁。

《土地の名称・地形や土地の特徴を指す語句》

窪　　⇒窪田ともいう。低地にある田のこと。
あけそり⇒窪に対して高地にあり乾きのよい場所。同義語として「あげ田」「駄場田」の名称がある。
さおた　⇒湿田のこと。
さこだ　⇒山間の小さな谷間の水田のこと。
冷田　　⇒地下水の湧く水田
潮田　　⇒入江の奥などの高潮時に海水が流入する水田。
山地　　⇒谷間にある水田。
尻　　⇒奥まった所。
駄場　　⇒平たい場所。
泊、浦　⇒港などを指す。

一般的に地形などの特徴により地名と結びつけて使われることがある。例えば、「浦尻」とは「港の奥まった所」を意味する。ただし、例外もあるので、そのことに留意した上で歴史的考察をしていく必要がある。

9 月 8 ~ 10 日（水 ~ 金）真念庵境内 •試掘確認調査を実施予定

市内市野瀬地区に所在する「真念庵」。その堂舎を含む約 0.6ｋｍを国の史跡にすべく、本年度は国庫補助により石造物調査・境内の埋蔵文化財試掘調査、来年度は測量調査を計画しております。本年度 6 月に石造物研究者・濱田眞尚氏に調査いただき、この間の石造物調査は完了しました。

いよいよ 9 月 8～10 日(水～金)は、真念庵の堂舎周辺の埋蔵文化財試掘確認調査を実施します。高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財担当チーフ・下村裕氏に指揮を執っていただき、当生涯学習課池内課長補佐、田村・吉本(市史編さん室)、土佐清水市郷土史同好会会員２名を作業員に予定しております。重機操作などの業者選定はこれからになります。

下村チーフは、高知県立埋蔵文化財センターで埋蔵文化財専門職員として多くの遺跡を発掘調査し、その指揮を執ってこられた方です。試掘結果が楽しみです。

↑旧宿舎跡地や石列周辺などを中心に試掘を計画